

美園スタジアムタウン憲章

街全体がスタジアムのような品格と活力にあふれ、
一人ひとりがまちづくりのプレイヤーであり、サポーターとなるまち

さいたま市の副都心の一つである美園地区として、本地区の象徴たる埼玉スタジアム2002(以下、埼玉スタ)をはじめとする地域資源を生かしながら、“美園”に暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人が、安心して快適かつ健康的なライフスタイルを実現しつつ、コミュニティの中で楽しく、豊かな時間を享受できるスタジアムタウンとなることを目指して、以下の「まちづくりの基本理念」と「まちづくり活動の指針」を定めます。

まちづくりの基本理念

1. 新価値創造都市・美園^{タウン} 創造的な交流を通じて、 新しい価値を生みながら成熟していくスタジアムタウン

大門宿や見沼田圃等の由緒・歴史、そしてサッカーの聖地「埼玉スタ」の新たな伝統を生かしながら、スポーツ・アート・サイエンス・テクノロジーのもつ創造性を発揮して、“美園”固有の文化・産業を育み、知的な交流機会と人間味あふれる魅力で人々を惹きつけるスタジアムタウンを共創します。

2. 多世代健幸都市・美園^{タウン} 子どもから高齢者まで、地域の中で支え合い、 健やかに過ごせるスタジアムタウン

スポーツに触れる身近な一大拠点施設「埼玉スタ」を核に、保健・医療・福祉・教育・産業等の重層的連携を推進するとともに、安全で快適な生活環境の向上を図り、“美園”で過ごす一人ひとりが健康維持・回復・増進に取り組みながら、世代を超えて相互に支え合う、安心と健幸のスタジアムタウンを育みます。

3. 次世代環境都市・美園^{タウン} 豊かな自然に親しみ、 人と環境にやさしい暮らしを未来に伝えるスタジアムタウン

見沼田圃や綾瀬川水系に抱かれた自然の回廊と共生しながら、“美園”のシンボル「埼玉スタ」を中心に安心安全・快適で質の高い環境デザインを実現し、スマートで心豊かなライフスタイルとコミュニティを体現した、低炭素・循環型地域社会のモデルとなるスタジアムタウンを次の世代へ引き継ぎます。

まちづくり活動の指針

住民・地権者、企業、大学等の専門機関、行政機関など“美園”に係る様々な人々や団体が、オープンかつフラットな連携・協働のもと、新たな時代に対応した最先端の知見や技術を取り入れながら、地域の個性を活かした事業・活動を通じてスタジアムタウンづくりを機動的に実践していきます。

2017年4月
美園タウンマネジメント協会
みその都市デザイン協議会



補. 美園スタジアムタウン憲章について

さいたま市の“副都心”の一つに位置づけられている「美園地区」では、土地区画整理事業による大規模な都市開発が進行中です。道路等のインフラ整備や宅地造成、学校・公園・複合公共施設等の整備も進みつつありますが、基盤整備後の土地利用の促進や、地区内の定住人口・交流人口のさらなる増加等が課題となっています。

そこで、「美園タウンマネジメント協会」(会長:西宏章慶應義塾大学教授、2015年8月設立)および「みその都市デザイン協議会」(会長:久保田尚埼玉大学大学院教授、2016年3月設立)では、まちづくりの主役となる地域住民や土地建物権利者と、地区まちづくりを支える民間事業者や各種団体・組織、各分野の専門家等による連携・協働を促進させるため、地区の将来像や目標・指針等を共有する本地区の“まちづくりビジョン”の検討を進めております。

本『美園スタジアムタウン憲章』は、住民ワークショップやパブリックコメントにて地域の皆さまからいただいたご意見を踏まえながら、将来都市像や基本理念を先行的に整理し、共有を図るための“まちづくり憲章”として策定いたしました。

今後、アーバンデザインセンターみその(UDCMi)を拠点に、本憲章を具現化するための様々な取り組みを加速度的に展開し、美園地区のスタジアムタウンづくりを進めてまいります。

美園タウンマネジメント協会事務局
みその都市デザイン協議会事務局